

2024 年日本国内及び日系海外の ボンド磁石生産・需要動向

JABM企画委員長
戸田工業(株)
脇本 直樹

1. 全体感

2024年の日本国内におけるボンド磁石の生産は、新型コロナウイルスや半導体不足の経済活動への影響が昨年度に比べて落ち着きを取り戻しつつあります。しかし、世界的な景気減退に加えロシアとウクライナの戦争やそれに伴う電気・ガス等のエネルギーコストや原材料費の高騰、安価な中国産材料の台頭などが影響を及ぼしています。これらの影響により、2024年のボンド磁石全体としては、2023年対比で回復傾向にあるものの、その影響は限定的であると考えられます。

その中でも中国に端を発する世界的な景気減退はボンド磁石市場に対して特に大きな影響を与えていると考えられます。

ボンド磁石を取り巻く環境としては、2025年に予定されていた欧州EV化法案の最終承認延期や景気分による中国EV市場成長鈍化などの要因はあるものの、EV化は確実に進むとみられ、車載用センサーなどボンド磁石の活躍できる場、用途が今後増えていくものと推測しております。

一方、2025年1月に就任したトランプ大統領が各国に対して関税の見直しを公表しており、また、永久磁石の対中関税も2026年より0%から25%へ引き上げられる予定です。今後、中国や日本を取り巻くアジア地域、さらには世界規模での影響が現れる可能性があります。

2. 各磁石材料別状況

フレキシブルフェライトボンド磁石

2024年の国内生産は重量3,000トン(前年比+7%)、金額23.5億円(前年比+9%)と推定いたします。主力の「吸着・マグネットシート関係」は昨年比同水準、「マイクロモーター関係」は昨年比で約15%増加しております。どの用途も需要の底(そこ)は脱しつつあるものの世界的な景気減退の影響は未だ継続しているものと思われます。

日系メーカーの海外生産は前年比+3.5%の14.5億円と推定いたします

リジッドフェライトボンド磁石

2024年の国内生産は重量6,100トン(前年比+5%)、金額112億円(前年比+9%)と推定いたします。過去主力であったマグロールはプリントレシズ化などの影響で大きく需要が減退しております。家電関係では家庭用エアコンが昨年対比で需要が戻りつつありますが、パッケージエアコンは中国不動産業界の不振の影響を強く受けていると考えられます。

日系メーカーの海外生産は前年比+5.8%で72億円と推定いたします。

希土類ボンド磁石

2024年の国内生産は重量1,200トン(前年比変動無し)、金額302億円(前年比Δ10%)と推定いたします。他の磁石と同様に、主力製品である車載用途を代表的に世界的な景気減退を背景とした需要の底は脱しつつあります。生産量としては2023年とほぼ同水準と思われる。ただし、原料であるレアアースの市況が落ち着いてきているため金額は下がっていると推定いたします。

日系メーカーの海外生産は前年比95%で452億円と推定いたします。

【フレキシブルフェライトボンド】

	生産量 (トン / 年)	前年比	生産金額 (百万円 / 年)	前年比
2021 年	3,150	100%	2,300	105%
2022 年	3,500	111%	2,700	117%
2023 年	2,800	80%	2,160	80%
2024 年	3,000	107%	2,350	109%

【リジッドフェライトボンド】

	生産量 (トン / 年)	前年比	生産金額 (百万円 / 年)	前年比
2021 年	7,760	125%	12,300	129%
2022 年	6,600	85%	11,700	95%
2023 年	5,800	85%	10,300	88%
2024 年	6,100	105%	11,200	109%

【希土類ボンド】

	生産量 (トン / 年)	前年比	生産金額 (百万円 / 年)	前年比
2021 年	1,440	109%	31,200	120%
2022 年	1,220	85%	34,300	110%
2023 年	1,200	98%	33,600	98%
2024 年	1,200	100%	30,200	90%

【日系メーカーの海外生産金額】

	フレキシブル	リジッド	希土類	合計
2021 年	1,400	8,600	50,400	60,400
2022 年	1,500	7,700	52,900	62,100
2023 年	1,400	6,800	47,600	56,300
2024 年	1,450	7,200	45,200	53,850